

令和2年度小松市立月津小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p>〈「学校が楽しい」と回答する児童を90%以上にする〉</p>	<p>「学校が楽しい」と回答した児童は、7月のアンケートでは94.4%であり、90%以上だった。しかし、一学期は行事や集会の数が減り、作成した児童会年間活動計画通り計画的に学校づくりに取り組めたとは言いがたい。2学期以降も発表の機会をもつことは難しいが、代表委員会等を通して学校づくりの視点を各委員会とも共有することで、それぞれの取り組みによって目指す月津っ子の育成につながるよう推進していきたい。こまめに計画の修正や追加変更も行いながら、できる範囲での活動の中で目指す児童の育成が達成されるように児童会中心に活動していく。</p>	<p>「学校が楽しい」と回答した児童は、12月のアンケートにおいても93.8%であり、常に90%以上を達成することができていた。また、今年度は児童会行事の取り組み方を見直し、ハッピーフェスティバルをはじめとした縦割りグループでの活動を学期に1回以上設定した。同じメンバーで協力して行動する機会を継続してもつことで、児童の協働性を育むことができた。</p> <p>コロナ禍の影響があり、年間活動計画は大きく変更しなくてはならず、集会発表の機会をもつことができない委員会もあった。来年度以降の計画を再度見直し、どの委員会も発表を通して学校づくりに関わられるように場をつくっていく。</p>
	<p>・主体的、協働的、粘り強い月津っ子の育成につながるような活動を児童会中心に企画、運営していく。</p> <p>・児童会年間活動計画を作成し、学校づくりの活動に計画的に取り組めるようにする。</p> <p>・各委員会が発表を通して全校に働きかける場を年間1回以上児童集会の中に設定する。</p>		
特別支援教育	<p>〈どの子も安心して学べるような環境を整える〉</p>	<p>「気になる子への対処の仕方について共通理解が深まり、組織的な対応ができていく。」および「校内委員会を効果的に設定し、関係機関との連携を密にすることで、課題の早期解決が図られている」について教職員アンケートでは、どちらも肯定的な意見が100%であった。</p> <p>担任から気になる児童の相談があった場合、子の実態に応じて専門機関と連絡をとり、対応してきた。</p> <p>これからも、校内の心の相談員やスクールカウンセラーにも協力していただき、さらに、児童理解について深められるよう関係機関とも連携して取り組む。</p>	<p>中間評価に引き続いて、「気になる子への対処の仕方について共通理解が深まり、組織的な対応ができていく。」および「校内委員会を効果的に設定し、関係機関との連携を密にすることで、課題の早期解決が図られている」について教職員アンケートでは、どちらも肯定的な意見が100%とすることができた。</p> <p>また、保護者の希望を受けて専門機関との連携も積極的に行うことができていく。</p> <p>今後も校内外の連携を密にしながら、児童理解を進めていけるよう取り組みを続けていく。</p>
	<p>・長期的・短期的な支援計画を立てて、特別支援教育校内委員会を通して児童の理解を深める。</p> <p>・特別支援教育校内委員会や児童理解の会を計画通り実施し、関係機関とも連携をとりながら進める。</p>		
道徳教育	<p>〈道徳教育の充実を図る〉</p>	<p>2学期の道徳の授業に生かせるように、7月に行われた外部研修の資料をもとに、教職員に周知したり啓発したりしていく。</p> <p>学びの足あとを残し方を推進した。各担任がクラスにあった掲示方法を考えて、学びの蓄積をしている。「重点項目の『友情・信頼』の学びの足跡を残している。」について教職員アンケートでは、「当てはまる」が100%であった。そのうちA評価が60%、B評価が40%であった。1学期に「友情・信頼」の内容項目を学んでいないクラスもあるためだと考えられる。2学期も引き続き声かけをし、各担任がどのような掲示方法をしているのかを他の職員に広めていく。</p>	<p>研修で学んできたことを他の職員に還元することができ、道徳教育の充実を図ることができた。しかし、全体で普段の授業についての意見交換等ができなかったため、児童のノートや板書など共有する時間を設けていく。</p> <p>重点項目の『友情・信頼』の学びの足跡を残している。について教職員アンケートでは、A評価が100%であった。各クラスの学びの足跡を紹介し共有することもできた。また、重点項目の掲示だけでなく他の価値項目についての掲示を行っているクラスも多い。児童の心の育ちが感じられる。</p>
	<p>・道徳教育推進教師を中心に校内研修を行い、外部研修で受けてきた内容を職員に啓発することで道徳教育を充実させる。</p> <p>・「友情・信頼」の学びの足あとを残す。</p>		
読書教育	<p>〈読書の質的な向上を図る〉</p>	<p>おすすめ10冊の取組については、全校で約40%の児童が達成した。学年によっては、達成状況が異なるので、2学期以降も引き続き声かけを行っていく。また、7月の委員会のイベントもあり、児童はより読書に親しんでいる様子が見られた。</p> <p>図書ボランティア等の読み聞かせによって、児童たちは普段触れ合うことがない本への興味や関心を持つことができた。</p>	<p>おすすめ10冊の取組については、全校で約90%の児童が達成した。読書月間の取組によりおすすめ10冊を薦めた結果、いろいろな分類の本に触れ児童の読書の質の向上につながったと考える。しかし、中には未達成者がいるので引き続き声かけを行っていく。</p> <p>図書ボランティアや担任による読み聞かせを行った。また教員がおもしろいと感じる本の紹介を掲示した。来年度は、子どもたちが手に取りたいくなるような掲示方法を工夫したり、お薦めの本の読み聞かせを積極的に行ったりしていく。</p>
	<p>・1～3学年は「おすすめ10冊」、4～6学年は「読書ポイント10」を達成する。</p> <p>・図書ボランティア・司書・担任などが読み聞かせやブックトークを行い、良書に触れる機会を設ける。</p>		
保健安全教育	<p>〈自ら健康的な生活習慣を身に付けようとする〉</p>	<p>休校中、学習等でメディアを使う機会が増え、メディアとの付き合い方が変わってきた。アンケートでは約80%の児童が「(大体)守れている」という結果だったが、中・高学年になるほど守れていない。児童保健委員会を中心にルールの見直しを行ったり体を動かす大切さについて呼びかけたりして、さらに徹底を図っていききたい。</p> <p>また、健康的な生活習慣を身に付けるためには、新しい生活様式を取り入れていかなければならない。アンケートから「意識して生活している」と答えた児童は約90%と高かった。さらに意識を高めるために「手洗い」だけで検証するのは不十分と思われるので、「マスクの着用・3密を避ける」も加えて、健康的に生活することの大切さについて児童に呼びかけていきたい。</p>	<p>学校保健委員会では、手軽に楽しめる運動を提案したり、南中サミットの取り組みと連携したりして「メディアルール」の徹底を図ってきた。その結果、夏季休業中とサミット中の休日では13ポイントの改善が見られた。しかし、12月の児童アンケートでは82%、中間とほとんど変わらない結果だった。保護者アンケートでは75%が「(大体)守られている」と答えているが、コロナ禍の現代では児童の身体への影響が心配である。今後は、メディアとの付き合い方について系統的・継続的に指導をしたり保護者にもさらに啓発したりして、家庭と協力して取り組んでいくようにする。新しい生活様式も児童の中に定着してきた。これからも、換気や手洗いをこまめに行うよう呼びかけ新しい生活様式をさらに浸透させていく。</p>
	<p>・継続して取り組んでいる「メディアルール」の徹底を図る。</p> <p>・児童保健委員会が中心となり、正しい手洗いの仕方を全校に広げ、手洗いの後は必ずハンカチでふく習慣を身に付けるよう徹底を図る。</p> <p>(各学期1回アンケートをとり、80%以上をA、60%以上をB、60%未満をCとする)</p> <p>・身体二計測時に、「ミニ保健指導」を実施する。</p>		
キャリア教育	<p>〈児童が自己の姿や成長を自己評価できるようにする〉</p>	<p>一学期末に際して、成長の足跡としてのワークシートの記入を全学年ですることができた。</p> <p>2学期のいくつかの行事や学期末など期をとらえ、姿や成長の記録を残せるように声掛け、準備していく。</p> <p>キャリアパスポート作成の仕方や内容について見通しが持てたので、OJTを設定し、各担任とも意義や方法を共有できるようにする。</p>	<p>今年度はファイルの形式と保管資料の共有を行うことができた。職員アンケートの「キャリアパスポートについて共通理解し、取り組んだ。」の項目においても肯定的な意見が100%になっており、取り組みを進める基礎をつくることができた。</p> <p>キャリアパスポートの意義を職員や児童と共有することを大切にしながら取り組みを進めていきたい。</p>
	<p>・キャリアパスポートについて、校内研修等を通して全職員で共通理解し取り組む。</p> <p>・掲示等による案内や保管資料の準備・選定など、各担任が活動しやすい環境を整える。</p>		
情報教育	<p>〈児童が主体的にICT機器を活用しようとする態度を育む〉</p>	<p>・メディア機器やPCの環境を整備しICT指標を周知することで、各学年計画的に目標に向けた取り組みができていく。</p> <p>・2学期、3学期にインストラクターを招聘する計画を立て、全学年が1回以上活用できるようにする。</p> <p>・新しいタブレットが届き次第OJTを行い、環境整備や効果的な活用方法についての職員の理解を深められるようにする。</p>	<p>研修報告をするなど、職員のプログラミング教育、タブレットの使い方理解を図ってきた。その結果、職員アンケートでは肯定的な評価が100%になった。しかし、A評価は23.1%と低い。ため、具体的な活動場面を想定したOJTに取り入れていく必要がある。</p> <p>インストラクターの活用については、年度末までに全学年が1回以上活用することができた。インストラクターを招聘したときの資料を残しておき、年度のはじめに計画を立てて周知しておくことで、全教員が見直しを持つことができるようにしていく。ICT委員会を立ち上げ、タブレットのルール作りをするなどの環境を整えることができた。</p>
	<p>・校内研修等を通して、プログラミング教育、タブレットの使い方についての職員の理解を深める。</p> <p>・教育センターのインストラクターを全学年が1回以上活用する。</p> <p>・メディア機器やPCの環境を整え、児童・教員ともに利用しやすいように整備する。</p>		
家庭・地域社会との連携	<p>〈故郷を愛し、学校行事や学習を通して気持ちのよい行いができる〉</p>	<p>・昨年度の目標にさらに相手の目を見て、大きな声で挨拶をするという目標であるが、児童アンケートでは、96%ができた。と答えている一方、教職員アンケートでは85%になっている。教室ではできていても町の中や、いろいろな場面でのあいさつの意識が低い児童がいるように思われる。学級指導や児童会での取り組みに、挨拶への意識を高めることを取り入れ、コロナ禍においても、挨拶で人とのつながりを強くしていく取組をしていく。</p> <p>・コロナ禍の中での授業では、積極的に地域に出かけたり招いたりすることが難しかった。今後の情勢を見て、感染予防をしながら取り組んでいくようにする。</p>	<p>年間を通して、6年生が朝のあいさつ運動に積極的に取り組み、校内の意識を高める努力をしてくれた。それを受け、5年生も自分から挨拶をするというめあてに取り組んだ月は、学校に活気があふれていた。</p> <p>アンケートでは児童・教職員共に目を見て挨拶をする項目では92%の達成率で、1学期の教職員アンケートから7ポイント上回った。保護者は子どもが自分から挨拶しているという項目では86%になっている。今後もいつでもどこでも誰にでも自分から挨拶ができる児童を育成していきたい。</p> <p>地域との触れ合いにおいては、コロナ禍で大変難しく、やむを得ず中止することも多かったが、感染対策を工夫して、できる限り取り組むようにした。</p>
	<p>・朝のあいさつ運動を振り返り、児童会活動を通して運動を推進する。</p> <p>・よりよい地域の担い手として、あいさつや気持ちのよい行いができるように家庭や地域に啓発する。</p> <p>・郷土の良さに気づき、全学年が積極的に地域の人と触れ合う機会を設ける。</p>		
学校関係者評価	<p>・コロナ禍で大変だったと思うが、良く決断して行事などしてくれたと思いを感謝している。</p> <p>・学校評価は大切だが、分析や集計が大変だと思う。働き方改革に逆行していないか。</p> <p>・働き方改革を進めるにあたり、勤務時間だけを短縮することは本当の働き方改革にはならない。熱意を持って仕事にあたった人もいる。</p> <p>・やりがいを持っている人が働き方改革を進めることで、やる気をなくさないようにしてほしい。</p> <p>・子どもが素直でとても良いが、この子たちの課題は何か、何が必要かをよく考えたい。</p> <p>・アンケートは無記名でなくては本心はかけないが、内容によっては誰が書いたかわかる工夫をしてほしい。</p> <p>・児童が自主的(主体)やっていることがよく分かった。学校が楽しいと答える児童が多いのは本当だと思う。休校中子どもたちは学校に行きたくてたまらなかった。</p> <p>・学校が楽しくないという少数の児童をよく観察する必要がある。</p> <p>・6年生を送る会の出し物を見て、表現の方法が昔とはずいぶん変わってきたことを感じた。ITCを使い、コロナ禍でもいろいろな表現方法を見て頼もしく思った。</p> <p>・将来的には1週間に1回は家にタブレットを持って帰って使いこなすようになるとうい。</p> <p>・コロナ禍で、できないこともどうやってできるかをよく考えて形を変えて表現してほしい。</p> <p>・子どもがよく挨拶してくれてうれしい。</p> <p>・コロナ禍で人との関係が希薄になっている。大人の間関係の希薄さが子どもにも影響をしているのではないかな。(行き渋り)</p>		

